

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次の医療に対応できるよう努力します。

2020 Autumn Vol.063

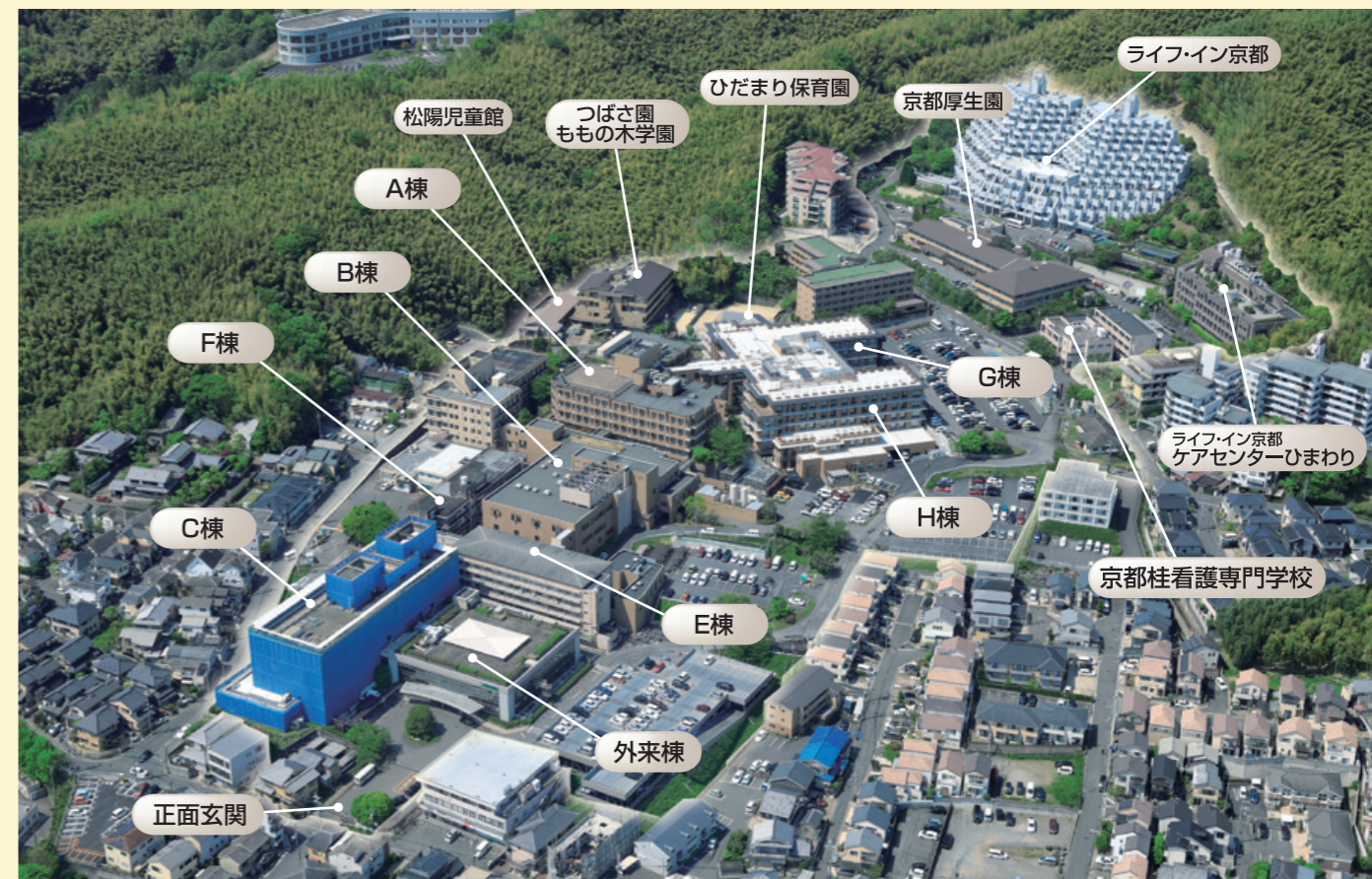
編集：広報委員会・広報課
印刷：有限会社 アクト
〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
TEL075-391-5811(代)

清水寺 (撮影 堀居 恭子)



Index

専門医がお答えします — 第53回	2
整形外科の手術	
耳鼻咽喉科の治療のご紹介	4
知っトク情報コーナー	5
検査科 専門職紹介「検査科の各種検査について」	
ナースの広場	6
産婦人科と小児科の混合病棟となって	
連携医ネットワーク	6
当院の医師・職員紹介	7



許可病床数

●557床 (一般545床：結核12床)

診療科目

- 一般内科 ●血液内科 ●糖尿病・内分泌内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ科 ●化学療法内科
- 心臓血管センター (心臓血管内科・心臓血管外科)
- 消化器センター (消化器内科・外科) ●乳腺科
- 呼吸器センター (呼吸器内科・呼吸器外科)
- 脳卒中センター (脳神経内科・脳神経外科)
- 整形外科 ●形成外科 ●泌尿器科 ●産婦人科 ●眼科
- 耳鼻咽喉科 ●皮膚科 ●小児科 ●緩和ケア科
- 精神科 ●リハビリテーション科 ●腫瘍内科
- ペインクリニック科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科

●血液浄化センター ●健康管理センター

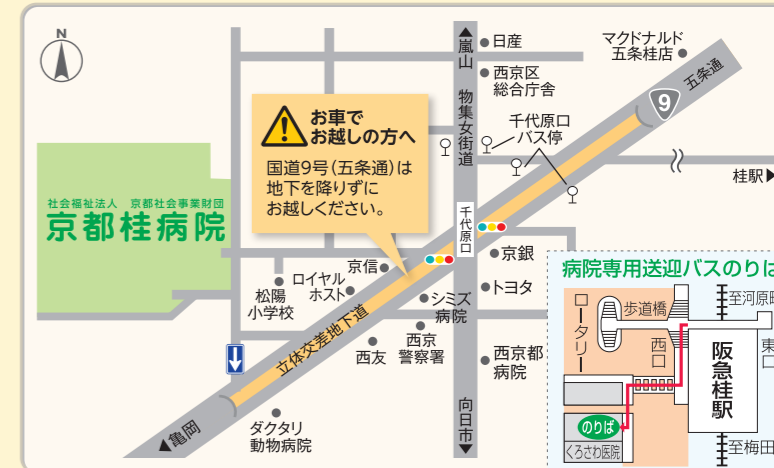
●京都桂臨床医学研究所(臨床試験センター) ●保育所

併設施設

- 京都桂看護専門学校 (全日制3年課程)
- 訪問看護ステーション「桂」

関連施設

- 西陣病院 ●京都からすま病院 ●にしがも透析クリニック
- 京都厚生園 ●京都桂川園 ●にしがも舟山庵
- 北野保育園 ●二条保育園 ●昭和保育園 ●つばさ園
- ももの木学園 ●松陽児童館 ●ライフ・イン京都



交通のご案内

市バス

73系統(京都駅～洛西バスターミナル)
29系統(四條烏丸～洛西バスターミナル)
69系統(二条駅西口～阪急桂駅東口)
それぞれ「千代原口」下車、徒歩約10分

京阪京都交通バス

21、27系統(京都駅～桂坂中央)
「千代原口」下車、徒歩約10分

阪急電鉄

京都線「桂駅」下車
(西口)西へ約1.7km

病院専用送迎バス(約15分)

「阪急桂駅」及び「JR桂川駅」からは送迎バスを無料でご利用いただけます。

「JR桂川駅」送迎バスのりば(阪急桂駅西口の送迎バスのりばは、上記地図を参照してください。)



社会福祉法人 京都社会事業財団
京都桂病院
<http://www.katsura.com>

整形外科の手術



整形外科 部長
(同 人工関節研究センター長)
藤田 裕

赴任当初から一貫している基本方針は、「手術に特化」することにあります。当科では治療の重心を関節疾患、脊椎疾患、骨折などの「手術でしか治せない」患者さんにおいています。私

は2003年当院赴任時に部別別の専門医による「専門外来」を立ち上げました。お蔭様でこれまでに1600例の人工関節を含む2400例の関節手術と1200例を超える脊椎手術を含む総計8000例

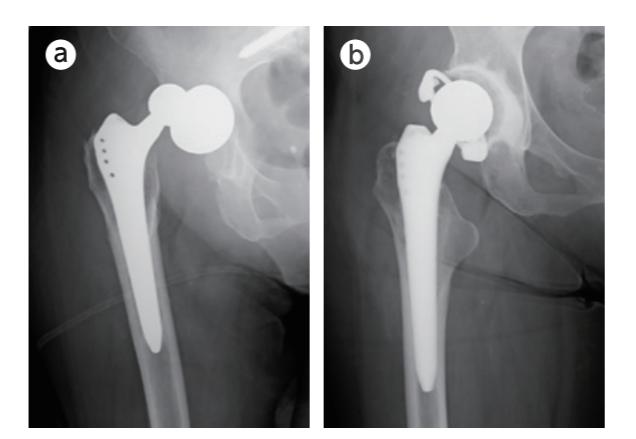


図1 | ①他院で人工骨頭置換術の手術を受けたが、頻回脱臼により部品が分解されてしまい、歩行不能となった。
②当院で特殊な拘束型の人工股関節再置換術を行い、痛みなく歩けるようになった。

私は股関節、膝関節の主に関節を専門に行ってきた。「安全で長生きする人工関節」をテーマとしており、再手術など他の多くの病院ではこなせない難症例(図1)も

積極的に引き受けています。外来日は月、火です。脊椎は清水副院長が担当し、外来日は月、火、木です。腕全体のしびれ、腰痛、腰から足にかけての痛み、長い距離を歩くと脚が重くなる、などの症状があれば頸椎や腰椎に問題があることが多いです。除圧術や固定術で大きな改善が期待できます。腰椎に関しては前方、後方同時手術(図2)により術直後より症状が軽快し早期退院できています。腰椎圧迫骨折後の重度の痛みに対しては椎体形成術を行い、良い結果が出ています。

スポーツ、肩、膝は原田副部長が専門的に治療に当たっています。外来日は火、木、金です。腕が上がらない、膝が痛い、足の指が痛い、などの症状があれば肩腱板損傷、膝軟骨・半月板損傷、外反母趾などが考えられます。関節鏡を使って小さな切開で手術ができるので社会復帰も早いです。最近では膝の軟骨損傷に対して細胞培養軟骨移植

次の頁に続く

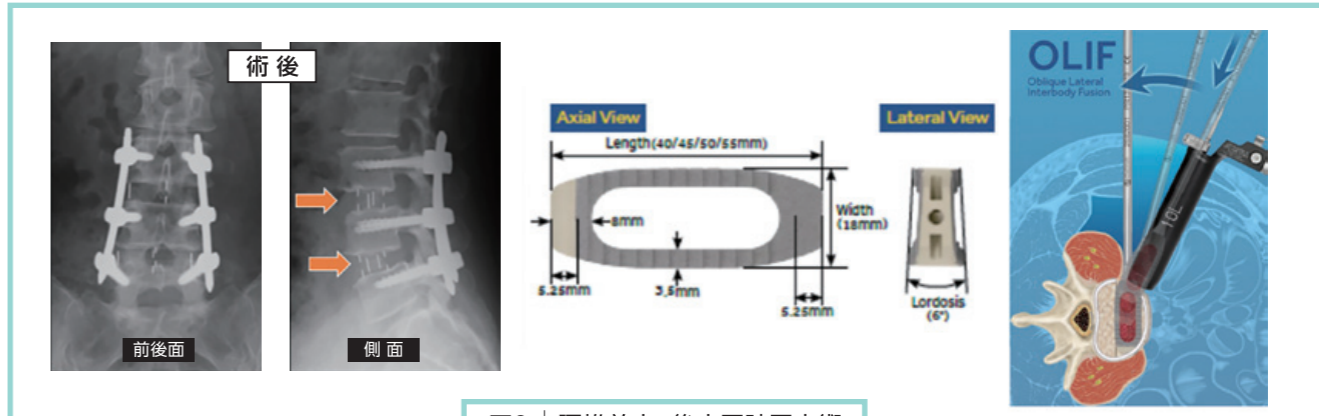


図2 | 腰椎前方・後方同時固定術

軟骨を採取

軟骨組織 0.4g

培養
4週間

軟骨を移植

軟骨欠損部に白色の培養軟骨を移植しているようす

図3 | 細胞培養軟骨移植

（図3）も多く行っています。手は西村医師（水曜朝）、奥谷副院長（月、火、金）が専門的に治療に当たっています。指の痛みや引っ掛かり、手のしびれ、

などの症状があればバネ指、手根管症候群、肘部管症候群などが考えられます。手術で大きな改善が期待できます。

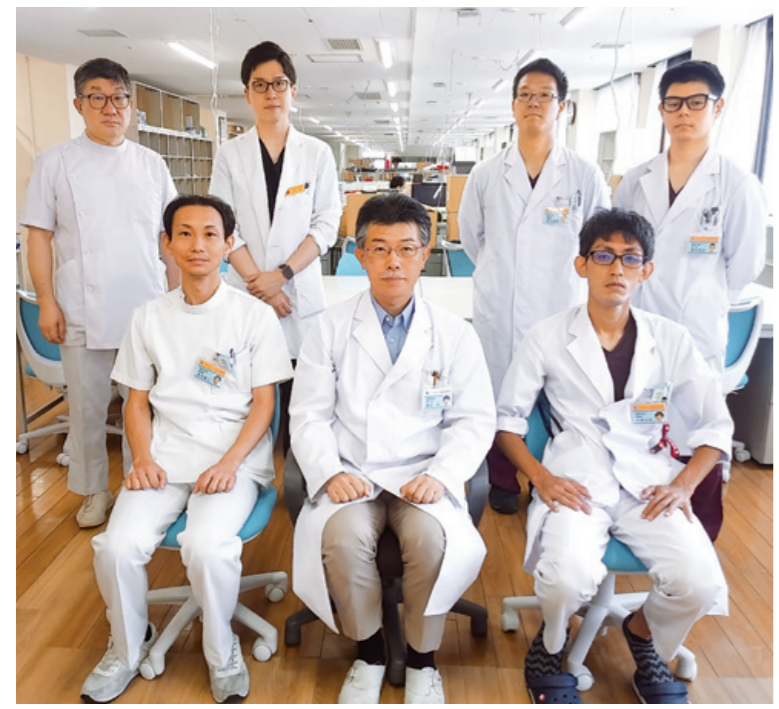
骨折は片岡副院長を中心に手術をしています。高齢者が転倒し手首が痛い、肩が痛い、股関節

節が痛い、といった場合はそれぞれ橈骨骨折、上腕骨骨折、大腿骨近位部骨折です。いずれも早期に手術をすることにより機能の回復が得られます。

関節炎は室谷医員（火、木）が専門的に治療に当たっています。急に膝が晴れてきた場合は化膿性関節炎か結晶性関節炎か？の早期の見極めが大切です。洗浄術を行えば軟骨を傷めずに

済みます。また、麻酔科、循環器科を中心に高いレベルの全身管理が行えることが手術の安全に大きな貢献をしているのが、当院の強みです。さらにリハビリテーション科のレベルも高く手術後の機能回復に大きな貢献をしてくれているのも当院で手術を受ける大きな安心材料となっています。

このように京都桂病院整形外科は幅広い整形外科疾患のうち、小児と悪性腫瘍を除くほとんどの疾患に対して「大学病院と同等の高いレベルの治療を行うことができます。これからも地域医療に貢献するとともに、全国から訪れる患者さんのために最善の手術を続けていく所存です。皆様の益々のご支援をお願いします。



集合写真（2020年8月）

前列左から、原田 副部長、藤田 部長、片岡 副院長
後列左から、西村 医師、清水 副院長、奥谷 副院長、室谷 医員
(背景はC棟に移転した総合医局)

検査科 専門職紹介

検査科の各種検査について

検査科 科長 豊山 浩祥



▼血液検査
血液中の白血球や赤血球、血小板の数を計測したり、凝固因子の測定をしています。血液中や骨髄中のがん細胞を顕微鏡で診断する部門でもあります。

▼生化学・免疫検査
血清中の電解質・酵素・脂質・糖・蛋白質・ホルモン・腫瘍マーカーなど実に多くの項目を自動分析機で測定しています。これらの組み合わせで病気の有無や進行具合が推定できます。その他インフルエンザ等の迅速検査も実施しています。

▼一般検査
尿定性検査（潜血、たんぱく、糖など）や尿沈渣（細胞、結晶など）のほか、便検査では消化管出血由来の潜血や虫卵検査を行っています。

今回は各種の臨床検査について紹介いたします。臨床検査は大きく二つに分かれます。一つは患者さんから採取された血液や尿などを扱う検体検査、もう一つは患者さんに直接行う生理検査です。次に各種臨床検査の概要を示します。

▼輸血検査
血液型や輸血時の適合検査、血液製剤の管理を担当しています。輸血関連検査では人為的ミスが許されないため検査依頼から結果報告まで独自の輸血システムにより行っています。

▼病理検査
喀痰や尿など検体中のがん細胞を診断する細胞診、病変の一部を生検したり、手術で摘出した臓器を診断する病理組織診は顕微鏡標本作製し、病理医が診断しています。今日では、癌治療にかかわる一部の遺伝子検査、免疫組織化学的検査も実施しています。また、最近話題の新型コロナウイルスのPCR検査も行っています。（写真）



以上のように臨床検査は複数の部屋で多岐にわたっています。病気の診断や治療効果の判定、予後の推定や種々のスクリーニングには欠かせないものとなっています。

▼細菌検査
採取された検体（喀痰、尿、血液など）に病気の原因となる微生物がいるかどうかの同定検査、抗菌薬の感受性検査、顕微鏡での直接塗抹検査を実施しています。また、大腸菌O157抗原や毒素の検出を行っています。

▼生理検査
心電図や肺機能検査、超音波検査や聴力、脳波検査などを実施しています。術中のモニタリングや超音波ガイド下の針穿刺、各種治療のサポートも行っています。最近増えている睡眠時無呼吸症候群の検査（PSG検査）も実施しています。

耳鼻咽喉科の 治療のご紹介



耳鼻咽喉科 部長 村井 紀彦

耳鼻咽喉科では、この春からスタッフと診療の幅を更に充実させていただきましたので、その一端として各領域の手術についてご紹介します。

耳の領域

慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎など、色々な中耳炎・中耳の病気に対して、鼓室形成術や鼓膜形成術を行います。耳硬化症に対してのアブミ骨手術も行っています。耳の穴から細い内視鏡を用いて行う内視鏡下耳科手術は、正常な組織への障害を低減できるため、積極的にを行っています。

新しく保険適用になった薬（成長因子製剤）を用いた、外来での鼓膜穿孔閉鎖術も開始しました。突発性難聴に対するステロイド投与は、副作用の軽減を目的に鼓室内投与を行います。顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術も、適応を選んで行います。

のどの領域

扁桃炎や扁桃が大きいことによる障害に対して、口蓋扁桃摘出術やアデノイド切除術を行っています。声帯の手術としては、声帯ポリープなどに対するラリngoマイクロ手術・喉頭直達鏡下手術の他に、声帯麻痺に対する喉頭形成術も行います。

重症の嚥下障害（のみこみにくさ）に対する嚥下改善手術、また誤嚥防止手術としての喉頭全摘、気道食道分離術も行っています。のどの早期癌に対する低侵襲手術として、内視鏡的咽喉頭手術も実施しています。

鼻の領域

慢性副鼻腔炎に対して内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っており、再手術の方や深部の手術はもちろん、概ね全例に術中ナビゲーションシステムを使用しています。鼻閉に対して鼻中隔矯正術、粘膜下鼻甲骨切除術を、適応があれば後鼻神経切断術も行います。

頸部の領域

甲状腺や耳下腺をはじめとして、頸部にできる良性・悪性の様々な病変に対する様々な規模の手術を行っています。可能な場合は小さい皮膚切開で、切開を置く部位も考慮して審美面・低侵襲手術に配慮しております。新たに保険適応となった術中神経モニタリングも、症例に応じて積極的に利用して、副損傷リスクの低減に努めています。



手術以外にも、アレルギーに対する抗体薬治療や癌に対する集学的治療など、病院の耳鼻咽喉科ならではの治療ラインナップを取り揃えています。このような専門性を更に拡充・維持していくため、耳鼻咽喉科は他科に先駆けて「初診患者紹介制」を導入しました。耳、鼻、のどの症状でお困りの方は、まずお近くの診療所・医院を受診されてご相談下さい。

